

「心をおおめぬ」

平成二五年八月二十六日 加茂法話会

一、心は、捉え難く、軽々と扱われぬが、欲するがままにおもむく。その心をおおめぬことは善いことである。心をおおえたならば、安樂をもたらす。

『フッタの真理のいよば』心よら

二、「かれは、われを罵った。かれは、われを害した。かれは、われから強奪した。」という思いをいだく人には、怨みはついに息むことがない。

「かれは、われを罵った。かれは、われを害した。かれは、われから強奪した。」という思いをいだかない人には、ついに怨みが息む。

実にこの世においては、怨みに報いる怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である。

『フッタの真理のいよば』心よら

三、人は変えられない 自分は変われる
その気がついた時に 自分はもう変わっている
自分をとりまく世界が 輝いていく

曹洞宗北信越管区教化センター 曜日めいの「自分への」のいよば集への